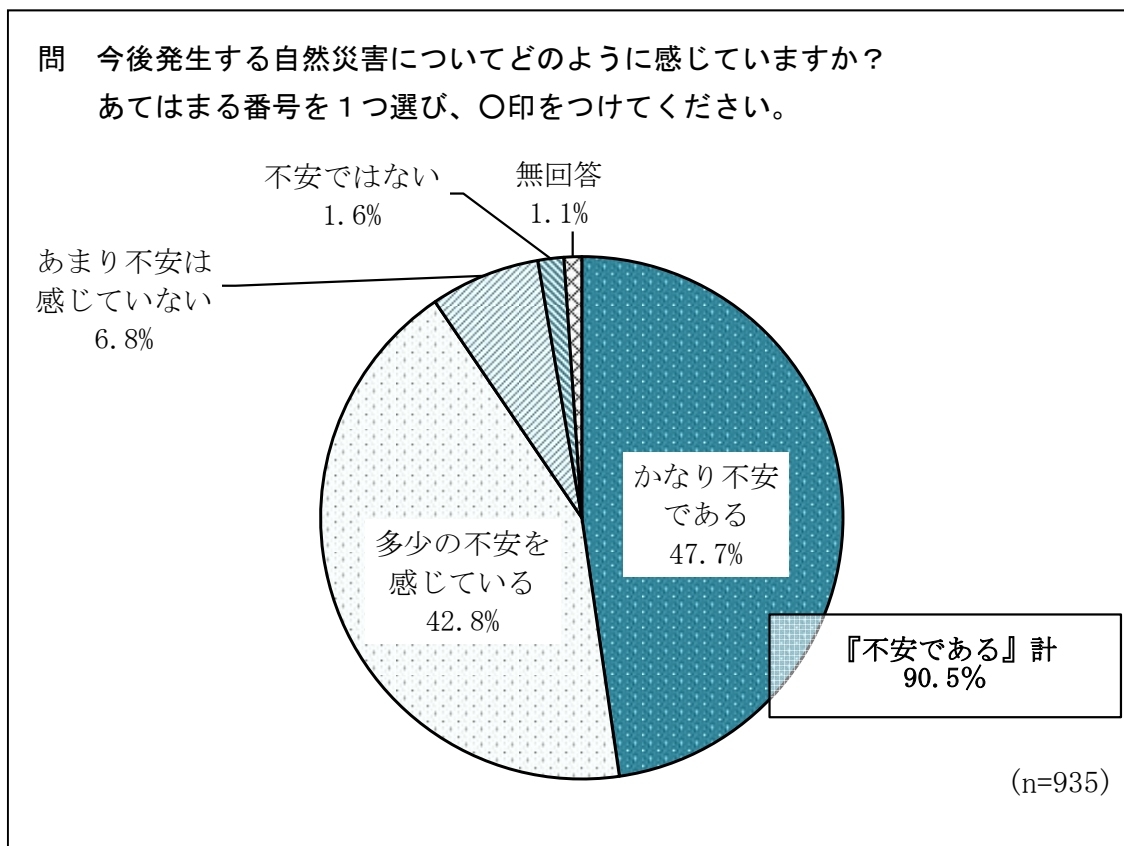


3. 令和元年東日本台風について

(1) 自然災害への不安感



9割の市民が自然災害への不安を感じている

【全体結果】

自然災害への不安感については「かなり不安である」(47.7%)と「多少の不安を感じている」(42.8%)の両者を合計した『不安である』計(90.5%)は約9割となっています。

一方、「不安ではない」(1.6%)と「あまり不安は感じていない」(6.8%)を合計した『不安ではない』計は1割未満(8.4%)となっています。

【属性別結果】(図3-1参照)

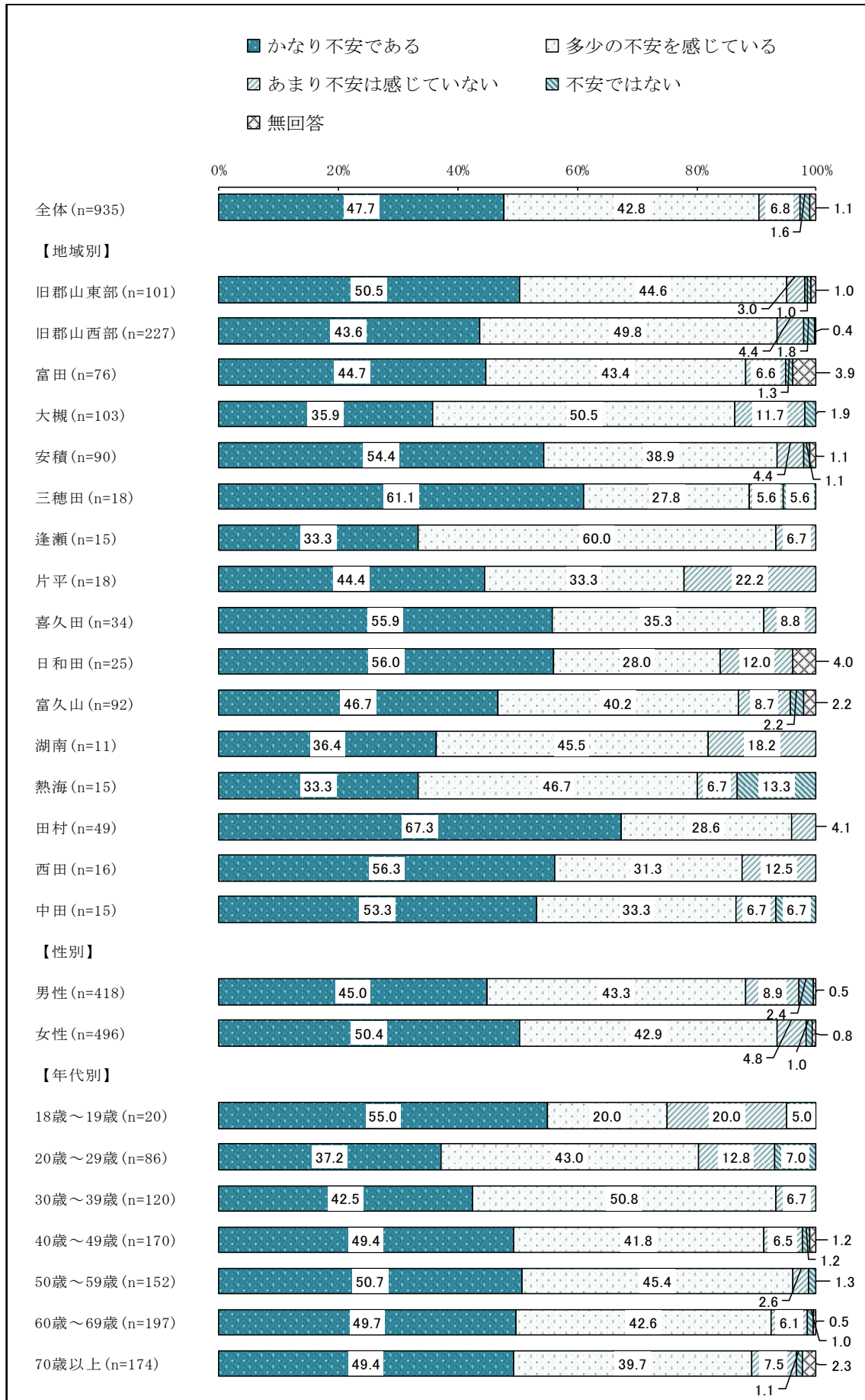
① 性別

『不安である』計の割合は、女性(93.3%)の方が男性(88.3%)よりも高くなっています。

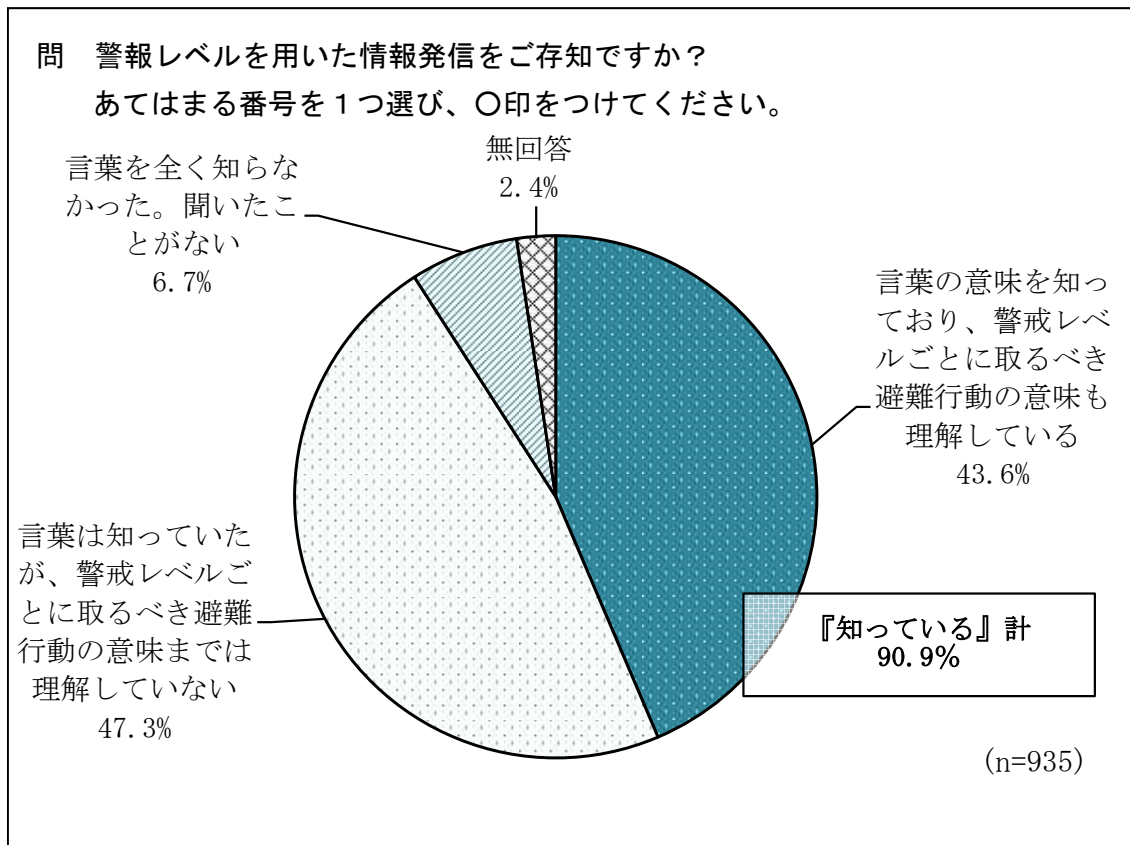
② 年代別

『不安である』計の割合は、50代(96.1%)で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代(80.2%)でした。

図3-1 自然災害への不安感（地域別／性別／年代別）



(2) 警報レベルを用いた情報発信の認知状況



9割の市民が認知しているが内容理解は4割

【全体結果】

警報レベルを用いた情報発信の認知状況については「言葉の意味を知っており、警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味も理解している」(43.6%)と「言葉は知っていたが、警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味までは理解していない」(47.3%)の両者を合計した『知っている』計(90.9%)は約9割となっています。

「言葉の意味」「警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味」を共に理解した上での行動が求められることから、今後も更なる周知に努めていく必要があります。

【属性別結果】(図 3-2 参照)

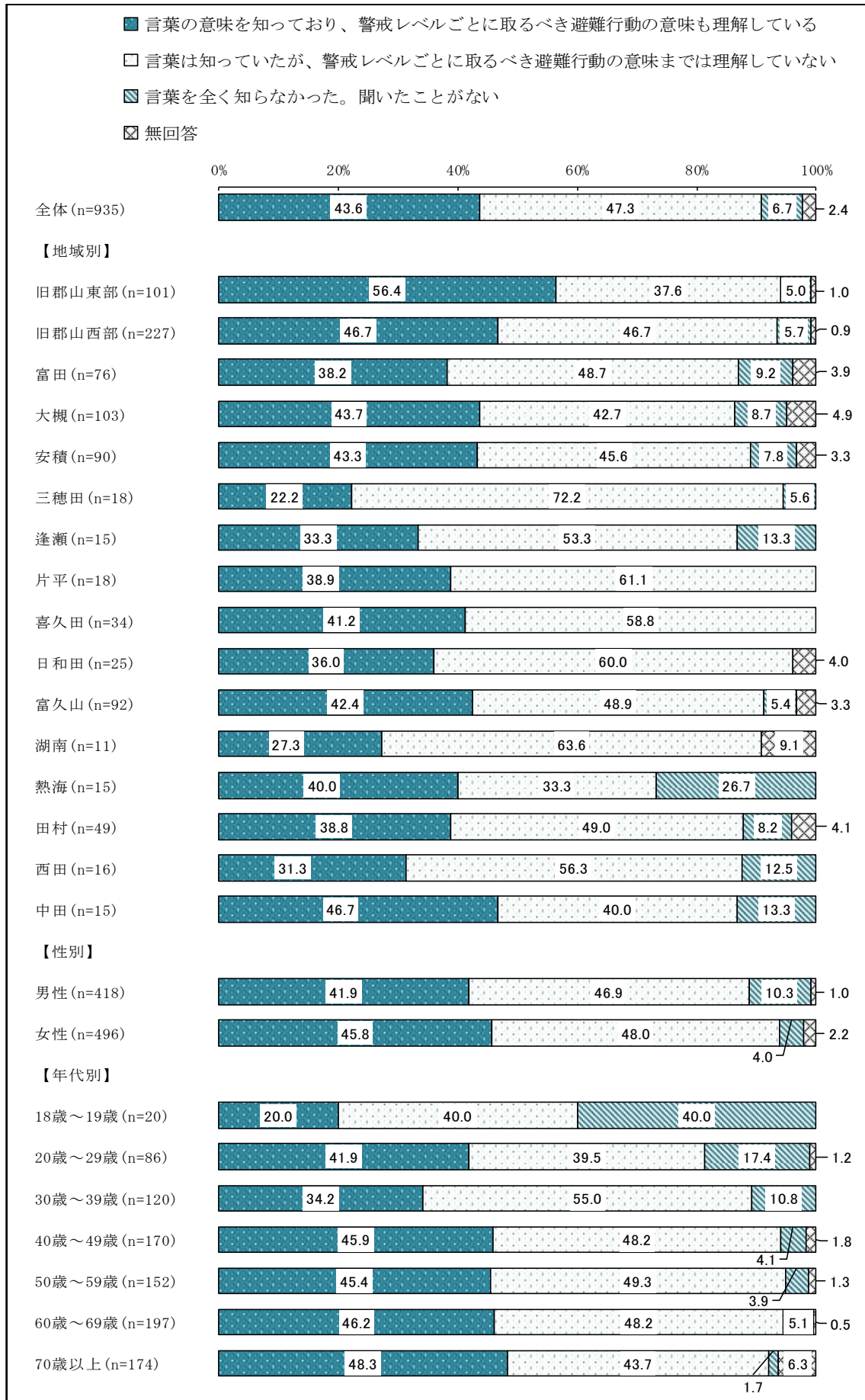
① 性別

『知っている』計の割合は、女性(93.8%)の方が男性(88.8%)よりも高くなっています。

② 年代別

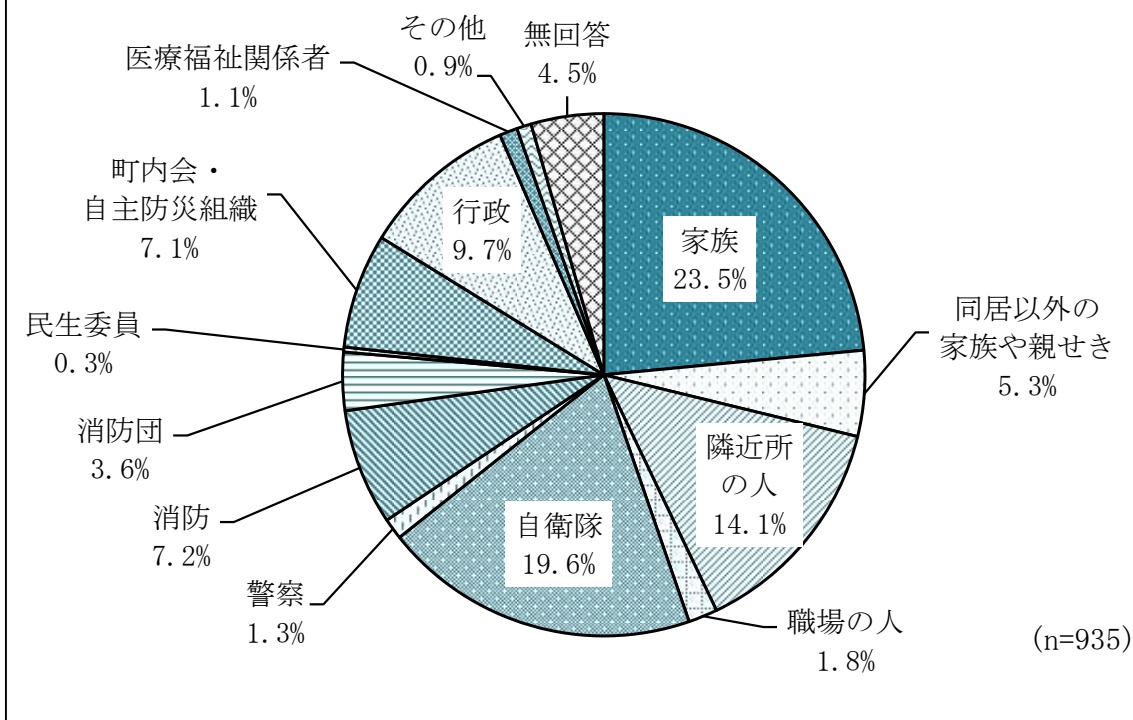
『知っている』計の割合は、50代(94.7%)で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代(81.4%)でした。

図3-2 警報レベルを用いた情報発信の認知状況（地域別／性別／年代別）



(3) 災害時に有効的と思われる協力先

問 もし、あなたの身近で災害が発生した際に、どのような方や組織等からの協力が最も有効的だと思いますか？最も有効的だと思う番号を1つ選び、○印をつけてください。



最も有効的と思われる協力先は「家族」

【全体結果】

災害時に有効的と思われる協力先については「家族」(23.5%)の割合が最も高くなっています。以下、「自衛隊」(19.6%)、「隣近所の人」(14.1%)の順で続いています。

【属性別結果】(図 3-3 参照)

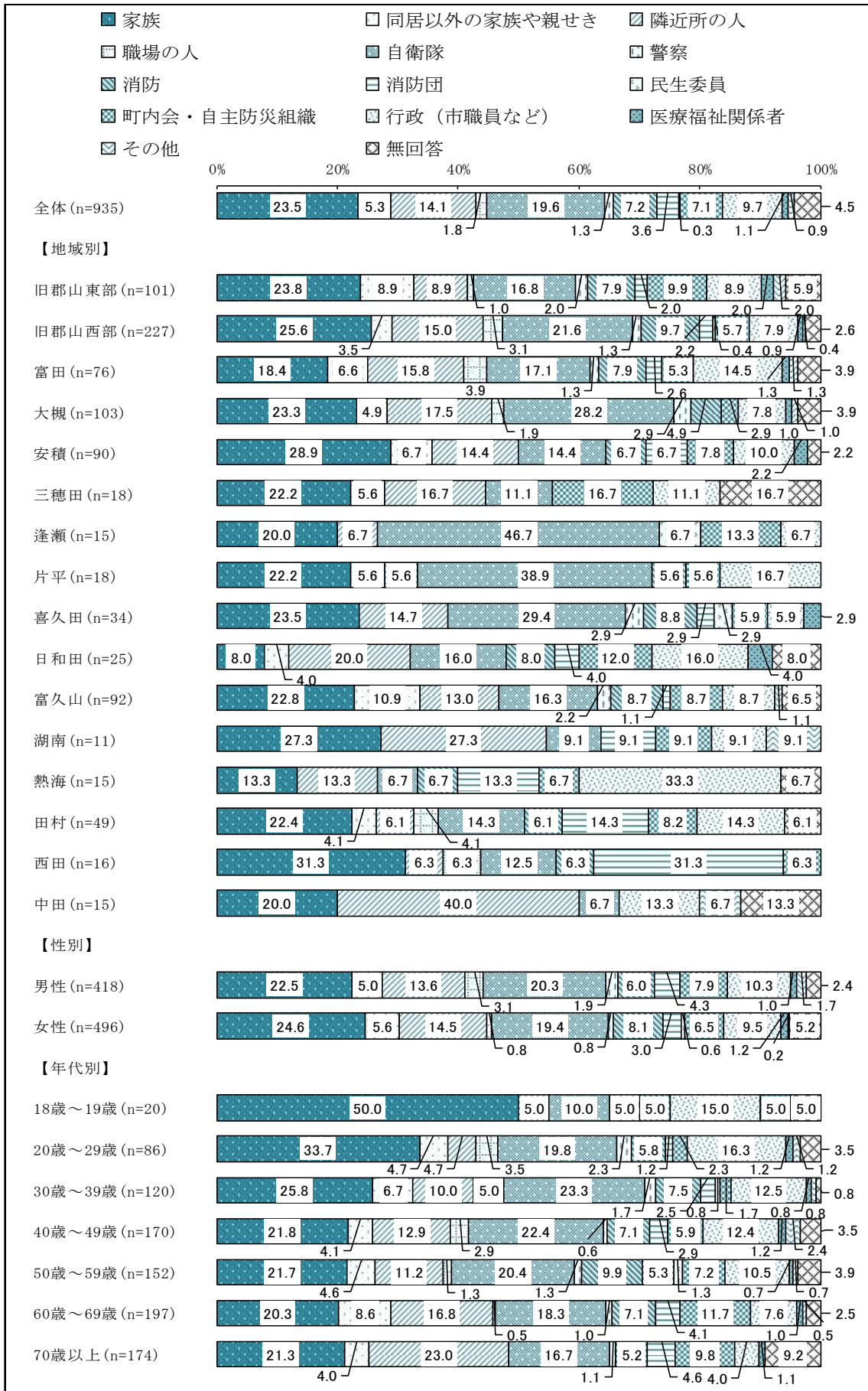
① 性別

性別では、大きな差は見られません。

② 年代別

年齢が若いほど「家族」の割合が高くなっています。一方、「隣近所の人」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

図3-3 災害時に有効的と思われる協力先（地域別／性別／年代別）



(4) 「自らの命を自らが守る」ために重要なこと

問 あなたは、「自らの命を自らが守る」ためにはどのようなことが重要だと思いますか？ご意見やご提案等がありましたら、ご自由にお書きください。(自由記載)

「自らの命を自らが守る」ために重要なことについてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を抜粋し、掲載しました。

- ・ 地域の特性をしっかりと把握することが第一に大切と考えています。それによって災害が起きた場合の避難先を決めておけると思っています。同居の家族と常に意志の疎通をはかること。(女性・70代以上)
- ・ 常時、車のガソリンは満タンにしています。お風呂の中には水をため、備蓄をし、運動を心がけ体力づくりをしています。(女性・60代)
- ・ 自分は大丈夫ではなく、情報を確認し行動する。(男性・50代)
- ・ 周辺に住む高齢者の把握と連絡手段の確認。(女性・10代)
- ・ 避難できる準備を常に(月に1回)かばんの中をチェックし、持ち出せる場所に置き、家族とは連絡できない時のために集合場所を決めておく。(女性・40代)
- ・ 最悪な場合を想定し早めの準備、避難を心がける。備蓄品の準備。市や地域からの情報発信を多くする。(女性・30代)
- ・ 隣近所の人達と日頃からコミュニケーション。(女性・70代以上)
- ・ 災害があると水や食料の供給が不安定になるので備蓄をしています。“自分らの命は自分で守る”意識の確認が必要だと思います。(女性・60代)
- ・ 年齢層に関係なく、分かりやすい避難場所の表示、開示してほしい。(男性・40代)
- ・ 教育機関での防災に対する学習とコミュニティが大事だと思います。(男性・20代)
- ・ ペット(犬)がいるのでペットといっしょに避難できる場所がほしい。つくってほしいです。(女性・60代)
- ・ もしもの時の救命行為を目で見たり、実際のやり方を指導してもらえるような講習会を広く開催してもらえればありがたいと思います。(女性・30代)
- ・ 災害時、隣近所の人と助け合うことが一番であるが高齢者ばかりです。家族の避難をすみやかにするには正確な情報の入手を早くして間違いのない場所への移動をする。(男性・70代以上)
- ・ 「防災さんぽ」初めて聞きましたが、個人レベルでできることとしてはいいことだと思います。(男性・60代)
- ・ 障がい者の避難などレクチャーしてほしい。体制も整えてほしい。(男性・60代)
- ・ 防災時の行動、補償等のアフターフォローの周知徹底をすること。(男性・30代)
- ・ 避難場所を知っておくことに加え、自宅が例えば水害に対してはどれだけ安全、危険な場所であるかをハザードマップ等を活用して把握しておく。(下手に避難した方が危ない場合もある)(男性30代)